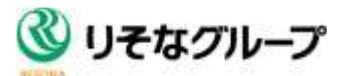


◎注意事項をよくお読み下さい



りそな 経済フラッシュ

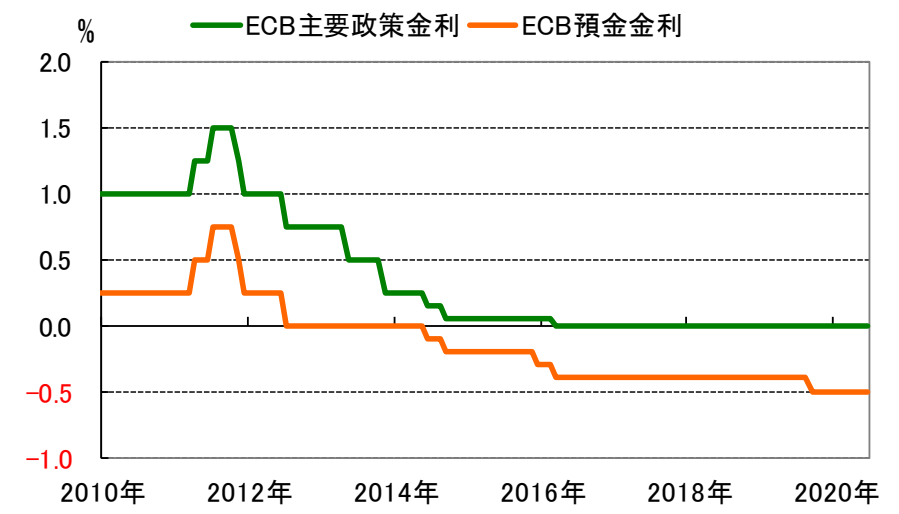
(ECB <欧州中央銀行> 理事会)

〇 概況

- ◆ ECBはパンデミック緊急資産購入プログラム(PEPP)の枠組みを拡充
- ◆ 市場の期待を上回る拡充となったことから、イタリアやスペインの対ドイツ国債利回りが縮小。ユーロ経済安定化への期待から通貨ユーロは上昇

- ✓ 6月4日に開催されたECB（欧州中央銀行）理事会では、パンデミック緊急資産購入プログラム(PEPP)の拡充が発表された。主な変更点は3つ。
- ① **3月導入のパンデミック緊急資産購入プログラム(PEPP)について、従来の7500億ユーロを6000億ユーロ増額し、1兆3500億ユーロへ**
- ② **PEPPの実施期間について、従来の2020年末から2021年6月末まで延長**
- ③ **同プログラムで購入した債券について、2022年末まで再投資継続**
- ✓ 一方で**中銀預金金利は▲0.50%、主要リファイナンス金利は0.00%、中銀貸出金利は0.25%で据え置き。**
- ✓ またフォワードガイダンス（将来の金融政策方針）についても、「**インフレ目標の実現がしっかりと見通せるまで**」を据え置き。満期を迎えた債券の償還金に関して、長期間の再投資を継続。
- ✓ 同時に発表された新たな経済・物価見通しでは、2020年の成長率見通しを3月時点の+0.8%から▲8.7%に大きく下方修正。物価見通しについても、2022年で3月時点の+1.6%から+1.3%に引き下げ、長期にわたり物価の低迷が続くことが示された。
- ✓ ラガルド総裁は、今回の会合では買入対象について、ジャンク債と呼ばれる格付けの低い債券を含めるかは議論していないとした。一方、今後も必要であれば更なる緩和の可能性も示唆した。今回のPEPPの拡充は市場の期待を上回るものであった。イタリアやスペインの国債のドイツ国債対比の利回りが縮小。ユーロ経済の安定化への期待から通貨ユーロは上昇した。

【ECB政策金利と預金金利】



【ECBスタッフ見通し（6月時点）】

	2020年	2021年	2022年
実質GDP成長率	▲8.7	+5.2	+3.3
3月時点の見通し	+0.8	+1.3	+1.4
HICP(消費者物価)	+0.3	+0.8	+1.3
3月時点の見通し	+1.1	+1.4	+1.6

前年比、%

【出所】ECB、Bloomberg

◎注意事項
 当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。